

ニッセンケン分室「思いつきラボ」No. 70

リオのオリンピック 2016 が始まり ました・・・



2016年8月6日(日本時間)に夏季オリンピックが開会いたしました。開催の寸前まで完成できるのかどうか心配させられた競技場や交通機関の整備などなんとか間に合っただけの開催となりました。この原稿を書いているのがちょうど期間なかほどの頃なのですが日本の獲得メダル数も思いのほか多く(あくまで筆者の主観ですが・・・)存分に楽しませてもらっています。毎回思うのですが、オリンピックの時にしか見ない競技がたくさんあることと普段は見えないのに“ずっと前から応援してたんだよ・・・”という気分になるのはなぜなんだろうと・・・不思議です。

オリンピックの知られざる憲章「環境配慮」

今回のリオのオリンピックでは海の汚染問題や建設現場の資材放置やジカ熱媒介の蚊の繁殖場所の衛生面など「環境」に関する不備も指摘が多くありました。実はさまざまな規則を定めているオリンピック憲章の中に「地球環境」の為に環境に配慮することが定められているのです。オリンピック憲章に「環境」が正式に加えられたのが2002年のアメリカソルトレイク冬季大会からなのですが、国際規模で環境について考えることが今では当たり前のようにになっていますが、きっかけは世界中の国々が集まるオリンピックが最初だったような気がします。

オリンピックで環境問題が意識されるようになったのは1992年スペインバルセロナ夏季大会からといわれています。各国のオリンピック委員と選手たちがオリンピック大会において地球を保護することを公約した「地球への誓い Earth Pledge」に署名して参加するという事で環境対策に取り組むことになりました。1994年ノルウェーリレハンメル冬季大会では「環境に優しいオリンピック」をスローガンに挙げ、さらに1996年アメリカアトランタの大会ではIOC国際オリンピック委員会の中に「スポーツと環境」という部署も設けられることになりました。



話は逸れますがもともとはオリンピックの開催は夏季と冬季と同じ年に行われていたのですが1994年のノルウェーリレハンメル大会から夏季と分けて冬季のみで行うようになったのです。“4年に一度のオリンピック・・・”とアナウンスされますがオリンピック大会は季節を分けて2年に一度は開催されているのです。環境問題をオリンピックで喚起するには2年ごとのほうが効果が高いので意識づけの上ではタイミングのいい時期に取組が始まったといえます。

1998年日本長野冬季大会では「美しく豊かな自然との共存」を掲(か)げ環境保全に取り組んだ大会にしました。大会の開会式で放たれた鳩の形をした“ハト風船”は地表に落下したあとに太陽光や水に触れることで生分解される素材でつくられていて環境に配慮した風船ということで話題になりました。確かに「環境に配慮すると言いつつながら ゴム風船大量に空に飛ばしてどうすんねん」という批判にこたえるもの

になっていました。大会で使われる紙コップや紙トレイも生分解しやすい素材が使われていました。繊維業界でも生分解する“ポリ乳酸繊維”の開発が盛んだったのもこの時期だったような気がします。

そして 2000 年のオーストラリア シドニー夏季大会では“オリンピック史上もっとも緑あふれる大会”といわれるほど地球環境に考慮したものを実現したのです。大会までに 200 万本の樹木を植林したり 廃棄物管理の徹底や低公害車の導入 公共交通機関の利用増加など積極的な運営を実行したのです。このような流れがあつて原稿のはじめに記載したオリンピック憲章に「環境」という文字がシドニー大会の次の 2002 年 アメリカ ソルトレーク冬季大会から加えられて環境の保全と改善を目的に多くのプログラムが作られたのです。

その後の活動はといいますと 2004 年 ギリシャ アテネ夏季大会では「スポーツと環境」という冊子が全会場で配布されて さらにアテネ大会組織委員会公認のオリンピック パラリンピックにおける「環境への挑戦と功績」と題した編集本を発刊したりして環境への意識向上に力を注ぎました。2006 年 イタリア トリノ冬季大会では大会期間中の二酸化炭素(CO₂)の排出量削減計画やフロンガスを使用しない冷蔵技術を活用した飲食物の推奨やエコラベル取得商品を調達物質で優先使用したりあらゆる分野で環境保全に取り組んでいました。

2008 年 中国 北京夏季大会では「緑色オリンピック」のコンセプトで環境意識の向上に努め 大会期間に合わせて天然ガスを用いた高効率な発電所を北京に建設したり 競技場に太陽光発電設備を設置するなどして 温室効果ガス削減を目指した取り組みを行っていました。大気汚染問題を抱えている国なのでその後の継続も期待されています。2010 年 カナダ バンクーバー冬季大会は「持続可能性」というテーマに基づいた取組を行い 廃熱の再利用が注目を集めました。選手村や競技場で暖房や温水に必要なエネルギーの約 90%を排水処理場から出る廃熱を再利用することで 電力とガスの消費量を大幅に削減することができたと報道されていました。

2012 年 イギリス ロンドン夏季大会では「オリンピック史上最も環境に配慮した大会」の実現に重点を置き招致活動が始まったところから取り組んで 特に既存施設の活用と新施設建設では長期利用可能なものに限定して大会設備の選定をすすめたとあります。二酸化炭素の排出量や再生可能エネルギー利用率など数値目標も公表して取り組んだ大会でもありました。

2014 年 ロシア ソチ冬季大会でも会期中や準備段階で排出される二酸化炭素などの温室効果ガスの削減に努め 地球温暖化への影響を最小化すると方針を出しています。競技会場の照明光源も LED に置き換えるとしたことや廃棄物ゼロ活動や自然保護による自然との共生なども目標に挙げられた大会になりました。



リオデジャネイロ夏季大会の環境配慮

そして 2016 年 ブラジル リオデジャネイロ夏季大会ですが 準備の遅れもあり環境への取組の具体的な報道があまりありません。大会のスローガンは「新しい世界」を掲げていて 初めてとなる“難民五輪選手団”が編成されたことなど平和的なメッセージの方が強く感じられる大会になっています。それだけ世界情勢が不穏ということなのでしょうが オリンピック憲章に基づいてなんらかの取組はされていると思います。



新聞やテレビ報道など調べてはみたものの いまのところ授与されるメダルが環境に配慮されたものという記事を見つけただけです。紹介しておきますと 今回の金メダルは廃車になった部品や鏡からリサイクル精製した銀を 92.5% 使用して金メッキを施したものとありました。銀メダルや銅メダルも 30% はリサイクル素材を利用しているとのことでさらに金の採取には環境汚染が問題となっている水銀は一切使っていないということでした。自然環境ではありませんが物造りでも環境に配慮しているということのようです。

まだまだ大会は続きますがオリンピックやパラリンピックの大会では競技だけではなく 環境への配慮にも取り組んでいることを知っていただいで残りの競技を楽しんでもらいたと思います。

原稿担当：竹中 直(チヨク)

